

県研究主題

望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と豊かな人間関係をはぐくむ指導の充実と評価の工夫・改善

提案1

提案者 片山 健 (川崎地区)

<研究主題>

「歩み寄り」の心を育てる話し合い活動

～学級活動(1)の「話し合い活動」実践例～

1 提案内容

友だちの気持ちを大切にし、困っている友だちがいると進んで声をかけられる子どもたちである。学級活動では、4月から、「学級会の名前を決めよう」「係を決めよう」「クラスの旗をつくろう」「お誕生日会を開こう」などの話し合い活動を行ってきた。話し合い活動では、司会グループを輪番制にして、全員が話し合いを進める経験をできるようにしている。

今回は、「心を一つに集会の内容を決めよう」を議題に設定し、話し合いの活動を行った。クラスの目標は「わからないことは教え合い 困ったときは助け合う みんな友だち6年3組」である。クラスの友だちと一緒に過ごせる時間は小学校生活で残すところ4ヶ月ほどにせまった時期の実践である。この3組の友だちと一緒にいられる時間をもっともっと大切にしていってほしい。普段、仲よく生活してはいるが、3組みんなが一つになれる関係を築いてほしいと願っている。そこで、今回、集会で行う内容について「みんなが一つになれる」をめあてにして話し合う本議題を設定した。自分たちで決めたみんなの気持ちが一つになれると思う内容に、楽しんで取り組む経験を通して、みんなで決め、それを実践するということの大切さを感じてほしいと考える。

2 活動の実際

(1) 活動の計画を立てる。

プログラム実行委員会を中心とした、話し合いの事前の準備の流れは、次のとおり。

- ① 話し合いたいことを議題カードに記入し、議題ポストに提案する。(休み時間)
- ② プログラム委員会を開く。(休み時間) 議題の選定や役割分担をし、話し合いの進め方を考える。そして、話し合いのめあてを決める。
- ③ 議題を全員に伝達する(帰りの会)
- ④ 「話し合い活動カード」を記入する。
- ⑤ みんなの考えを一覧にし、事前に全員に配り、話し合い活動の参考資料とする。考えを一覧にすると、最初に発言しやすい。また、時間短縮にもなる。

(2) 話し合う(学級活動の時間)

めあての確認→提案理由→意見を比べる→先生からの助言→意見をまとめる→認め合いタイム～友だちの良い点を認め合う～→教師の終末の助言(多くは話さず3つぐらい)

(3) 実践する

(4) 振り返る

### 3 まとめ

話し合い活動では、自分たちで決めてそれを実践していくことに意味がある。お互いがよいものを目指し、その中で本音がぶつかり合う瞬間がある。みんなで解決に向かう過程には、互いの心を分かり合おうとし、歩み寄っていかうとする。その活動が、心を育て、より良い人間関係をつくっていくのではないだろうか。相手の思いを受け止める優しさや、思いやり、みんなで認め合うクラスをつくってほしいと願う。

## 提案2

提案者 長谷川 政訓（中地区）

### <研究主題>

学級経営と学級活動の授業を結び取り組み

～望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と  
豊かな人間関係を育む指導の充実と評価の工夫・改善～

## 1 提案内容

日々の営みである学級経営と、特別活動のうち特に「学級活動」を連動させることで、特別活動の目標である「望ましい集団活動を通じた、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成」を図る取組である。「学級経営と学級活動の授業は連動したものである」そうした視点を改めてもって学級経営を行うことは、特別活動の目標である児童の「自主的、実践的な態度」を育て、「集団の一員としての自覚」を高めるためにも有効なのではないかと考える。また、他者と協同して合意形成を図る話し合いを主とした特別活動は、児童の思考力、判断力、表現力、そして実践力を育むという点で、必然的に「充実した言語活動」が含まれており、そうした取組はまた、学習の充実、学校生活の充実へと結びついていくものである。

## 2 活動の実際

### (1) 学級での取組

#### ○ 学級目標と月別学級目標

学級目標は、「一秒の言葉を大切に作る明るいクラス」「常に全力を出しみんなで高め合うクラス」の二つ。学級目標は年間目標なので、具体性に欠ける部分があるため、子ども達と共に1ヶ月の目標を立て、学級目標を具体的に意識させている。

#### ○ 学級通信等による「価値語の共有」

日刊の学級通信で、学級で共有したい価値語を共有し続けている。価値語を一方向的に語るだけでなく、生活の中で価値ある行動を教師が価値づけていく。

#### ○ 意欲的な雰囲気を作る指導

・あいさつりレー、無指名自由起立方式による全員発表

#### ○ コミュニケーションの機会を増やす

・輪になって話そう、ブックトーク、褒め言葉のシャワー、ミニクラス会議

### (2) 授業実践「価値ある一秒の言葉を広げよう」

1秒の言葉を広げるために自分ができることを考えさせ、1週間実践させてみた。「毎朝1年生の教室にあいさつに行く」「職員室の先生方5人以上にあいさつする」「給食室のお姉さんにお礼の言葉を伝えに行く」というめあてが多かったが、8割以上の子は自分で決め

ためあてを達成することができた。再度の話し合いでは今度はクラス全体で取り組みたい活動が複数出てきた。それらの活動のうち、夏休み前にふさわしいものとして、「図工の時間につくったパズルを交流級の3年3組の子にやってもらい、ありがとうと言おう」「7月までにお世話になった校内の人達に感謝の気持ちを言葉で伝えよう」の二つを実践した。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ・学級経営と結びついた特別活動の展開が、子ども達の自主的、自発的活動へとつながっていくことを、子ども達の変容を通して実感することができた。
- ・ねらいの共有、目標の共有化の大切さを知ることができた。

#### (2) 課題

- ・評価を明確にしていくことの必要性を感じた。
- ・議題のねらいを教師が把握をしていくことが必要だった。
- ・自主的、実践的な意欲を全校での取組など大きな活動に取り組める教育計画を作っていく必要がある。

### 4 まとめ

- ・子ども同士の間関係が良くならなければ、話し合いにならない。良い人間関係を作らなければよい活動につながっていかない。
- ・学級経営と学級活動を連携させていく取組はよかった。学級通信で価値的な言葉を伝えたり、自由起立方式で話す意識を身につけさせたりするなど、日常的な取組が、子どもの成長につながる。評価については、振り返りカードは記録にもなり、評価にもなる。そして子供を認めていく材料になる。
- ・学級で話し合う議題としては大きな議題よりも、身近な話題の方が話し合いは活発に進みやすい。
- ・学習指導要領に示されている内容に則した学級活動を行ってほしい。各校で創意工夫しながら、ねらいに則した実践に向けて、様々な機会を捉えて情報交換等を行っていただきたい。

### 5 班別協議

#### (1) 協議の柱

- 新学習指導要領に沿った年間指導計画の作成について
- 言語活動の充実について

#### (2) グループ協議のまとめ（抜粋）

- ・年間指導計画の作成については横浜市、川崎市のベースカリキュラムをもとに学校で年間指導計画を作っている。しかし、地域によって進み具合の違いがある。しかし、ベースがないところでも、小教研などで、情報交換を行っている。
- ・年間指導計画の作成については、つけたい力を明確にしていきたい。
- ・評価についても文部科学省の文言や行事の特性に合わせて作成していきたい。
- ・言語活動については、話し合い活動を充実させていくことで、自分の思いや考えを伝える場ができ、意見をつなげるような話し方ができてきたらよいと思う。教師からの働きかけも大切で、学年間の系統性をもたせることができればよいと思う。
- ・年間指導計画の作成については、ベースカリキュラムがあったり、話し合い実践例があったり

して、横浜市の取組は進んでいる。

- ・横須賀は授業提案で年間指導計画も併せて出されるようになっている。
- ・言語活動については、話し合い活動は1年生から続けていくことが重要であると思う。その中でよかった発言は担任が価値づけをしていく方が良い。
- ・下学年の児童に上学年の授業を見せるという取組も、話し合いを学ぶ上で効果的だったとの話もあった。話し合いが苦手な子への働きかけも必要ではないか。
- ・年間指導計画の作成については、横須賀市、川崎市はひな型があって、それをもとに学校で作っている。
- ・評価規準はこれから作成していく。
- ・学級会を各学校でやっていくことが大切であり、学級会自体を見る機会も増やしていく必要性がある。言語活動については、特別活動では説得力のようなものが大切になってくるのではないか。
- ・人間関係にかかわるところも大きいので、人間関係作りも大切だと思う。
- ・なるべく多数決はしないが、場合によってはしてもよいと思う。
- ・相手を思って考えや意見を受け取り、相手を考えて話すことが特別活動で力が付く言語活動ではないだろうか。

## 6 報告・まとめ

「評価規準の作成のための参考資料—小学校—（国立教育政策研究所HP）」「評価方法等の工夫改善のための参考資料—小学校—（国立教育政策研究所HP）」「言語活動の充実に関する事例集【小学校版】（文部科学省HP）」を熟読して欲しい。また、「生徒指導提要」「子ども熟議のすすめ」も目を通してほしい。生徒指導と特別活動はリンクしている部分が非常に多い。

さらに、次のような点を意識して計画を作成し、実践してほしい。

- 各校のねらいを明確にする。
- クラブ活動などではねらいを達成できるように時数を確保する。
- 年間指導計画は、実践を重ね、改善を重ねる。
- 特別活動における4つの大きな観点を重視する。
- 話し合いの仕方をしっかりと子どもに教える。年齢に合った話し合い活動に取り組みさせる。
- 話し合いは、お互いにとって良い結果になるような話し合いをめざして行う。